



日本犯罪社会学会企画調整委員会では、2020年から初学者等へ犯罪学の普及を目的とした講座「犯罪学」を開催してきました。同委員会では第4回の講座を下記の日程で企画・実施いたします。本講座は、犯罪学理論の体系化を中心におきつつ、犯罪学の最先端のテーマについても学びます。各テーマの専門家による講義により、犯罪学の考え方やこれまでの到達点を知ることができます。

ぜひご参加ください。



日本犯罪社会学会 企画 第4回 講座

「犯罪学」

2025年

受講者には修了証を発行いたします
※申込フォームで入力いただいたお名前が記載されます。

日程

2025年 9/13(土) 14(日) 15(月)・祝

各 10:00~16:50・事前申込制

対象 「犯罪学」に興味のある学生・実務家など

定員 50名(先着順・要申込)
定員に達し次第、受付を終了します

会場 立教大学 池袋キャンパス
11号館A304(対面開催)

参加費 参加有料・申込制
一般：15,000円
学生：10,000円

※受講者の都合による参加費の払戻しはできません。
※学生の方は割引コード「5931」と入力してください。
※当日は学生証をご持参ください。

申込はこちら

<https://criminologysem4.peatix.com/>

立教大学
ホームページより
<http://vc.rikkyo.ac.jp/facilities/ikebukurp/campusmap.html>



【会場へのアクセス方法】

池袋駅西口より大学正門まで徒歩約7分。要町駅6番出口より大学正門まで徒歩約6分。

住所：〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

日本犯罪社会学会 企画調整委員会

criminologysem.kikaku@gmail.com

ご質問等には、おおむね1週間以内に回答します。



・日本犯罪社会学会の会員に関わらず、どなたでもご参加いただけます。
・各講義とも質疑応答の時間あり。



第4回 講座「犯罪学」プログラム

都合により、一部変更となる場合があります。

	1日目 2025/9/13 (土)	2日目 2025/9/14 (日)	3日目 2025/9/15 (月)
time 10:00 ~ 11:20	講座「犯罪学」 イントロダクション 浜井浩一・龍谷大学 コトバンクは、犯罪学を犯罪にかかわる事項を科学的に研究する学問とし、総合科学として、最終的には犯罪の少ない快適な人間社会を旨すと記している。犯罪学の過去・現在・未来をざっくりみておこう。	理論① サブカルチャー・学習理論 齊藤知範・科学警察研究所 犯罪学には、犯罪・非行は後天的に学習されるとみなす立場の理論がある。本講では、犯罪学の古典や身近な犯罪・非行を例に挙げながら、人によりどころにする集団に接して犯罪・非行へと至る道筋を学ぶ。	トピックス③ ナラティブ犯罪学 仲野由佳理・日本大学 ナラティブ犯罪学は「ナラティブ」という形式を用いて犯罪・非行現象にアプローチする。本講義では、北欧的なナラティブ犯罪学の系譜を辿り、犯罪学領域におけるフェミニズムや当事者研究への展開を検討する。
12:30 ~ 13:50	基礎① 犯罪対応の制度 松原英世・甲南大学 日本で犯罪とされる行為を行ったらどうなるのか/どう処理されるのか? これを説明しながら、犯罪対応の制度(刑事制度)は犯罪を作り出す装置でもあることを伝えたい。	理論② ラベリング理論・社会的構築主義 山本功・淑徳大学 ラベリング論の社会学説史を概観し、社会構築主義へと至る流れを紹介する。原因論としての受容と、社会学的パースペクティブとして分岐していく二つの系譜に整理する。ゴフマンのスティグマ論との異同にも触れたい。	理論③ コントロール理論 上田光明・日本大学 現代の犯罪学の中で最も支配的な理論枠組みの一つであるとされるコントロール理論の基本的主張を、その歴史的展開や他の理論枠組み(学習理論、アノミー理論)との差異に注目しながら解説する。
14:00 ~ 15:20	基礎② 施設内処遇・社会内処遇の諸問題 小西暁和・早稲田大学 刑務所等における「施設内処遇」では特に拘禁刑の下での受刑者処遇に、また保護観察等を通じた「社会内処遇」では特に保護司制度に焦点を当てながら、処遇が抱える様々な問題を考え「処遇」とは何かを検討していく。	トピックス① 刑事司法と福祉 水藤昌彦・山口県立大学 刑事司法と福祉の関係の展開と課題、在り方について、刑事手続の対象となった障害者に対する福祉的支援を題材として考える。国内外における状況を比較しつつ、近年の法改正による影響を含めて検討する。	理論④ 離脱・ライフコース理論 津富宏・立教大学 離脱(desistance)とは、非行や犯罪をしないようになること(あるいは、そのプロセス)を指す概念である。本講義では、離脱概念の意義に概説し、Shadd Marunaの離脱観についても触れる。
15:30 ~ 16:50	基礎③ 犯罪学の研究方法 岡邊健・京都大学 犯罪学の実証研究には計量的方法・質的方法のふたつがあるが、本講では主に前者に関する基本的事項を講じる。研究方法の理解は、以後の講義で扱われる諸理論の理解に不可欠である。犯罪量の測定方法にも触れたい。	トピックス② アートと刑事司法 風間勇助・奈良県立大学 刑事司法の領域において「アート」はどのような役割を果たすか。本講義では、諸外国の刑事施設におけるアートプログラムの事例や研究を紹介しつつ、日本での取り組みの可能性や課題を検討する。	トピックス④ 修復的司法の現代的意義 森久智江・立命館大学 2000年代に日本で注目された修復的司法(Restorative Justice)はある種の流行であったのか。しかし今こそ、RJの中核にある対話という手法が犯罪現象を読み解くための重要な方法論となりつつある。そんなRJの今について考える時間としたい。